

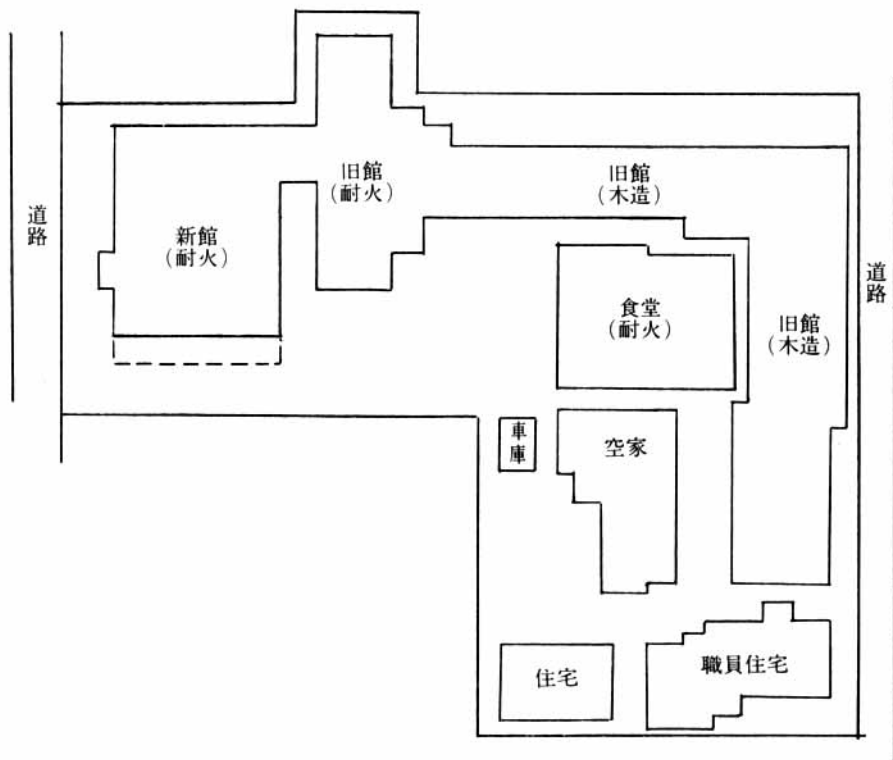
名称 所在	用途 (令別表)	発生日時等	構造・階層 面積	焼損程度 (焼損面積) (延面積)	死傷者
岩国病院 山口県岩国市 岩国3-2-7	病院 (6)イ	昭和52年5月13日	耐火 3% 一部木造%	全・半・部・小	死者 7名
		出火22時50分ころ 覚知23時14分 覚知別報知電話 鎮火0時09分	建 727m ² 延 1,627m ²	465m ² (29%)	傷者 5名 ()

I 火災概要								
① 概要	この火災は、耐火造の病棟と接続されている木造病棟1階の病室から出火し、またたく間に2階に延焼して、木造病棟を全焼したもので、自力避難の困難な重症患者が多かったことと、救出、誘導が不十分であった等から、7名の死者をだしたものである。							
② 階 別 状 況	階	床面積	焼損床面積	用途(売場)	在館者	死者	避難設備等	消防用設備等
	新館	A(耐火) m ²	m ²		新館 職員		新館	③
	3	259.7			看護婦10 (当直2)		屋内階段2 (1~3F)	④
	2	313.7			助産婦4 (当直1)		(1~2F)	⑤
	1	223.2			患者 11 付添 2		避難器具1	
	小計	797.6			小計27		旧館	
	新館	B(耐火)					屋内階段2	
	PH	17.4						
	2	131.2						
	1	131.2						
	小計	279.8						
	旧館	(木造)			患者付添4			
	2	267.3	267.3	病室	患者22	6		
①	282.9	197.8	病室	患者10	1			
小計	550.2	465.1		36	7			
合計	1,627.6			63	7			
③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 旧館(木造)病棟1階10号室から出火 病室の壁は、土塗真壁作りで、窓にはカーテンがかけられており、室内にはふとんのほか、机、棚、テレビ等がおかれ、入院患者の女性(79才)が就寝していた。				④ 出 火 原 因	不明 ※10号室の患者は、消灯後時々ローソクを灯すこともあり、また喫煙する事があるが、出火原因との因果関係は不明である。		

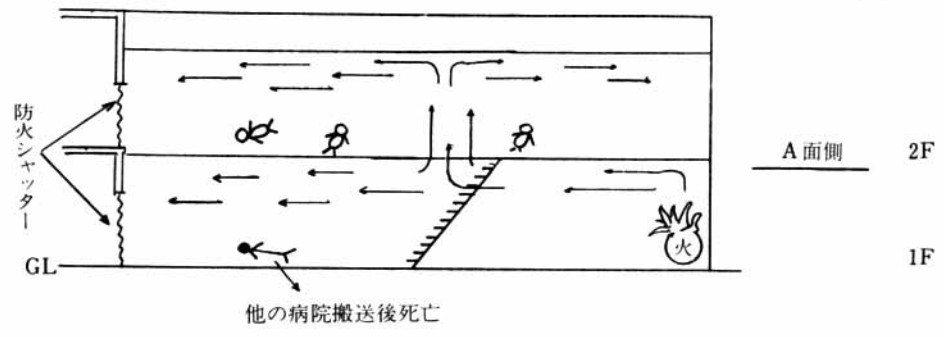
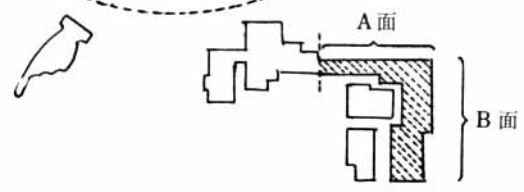
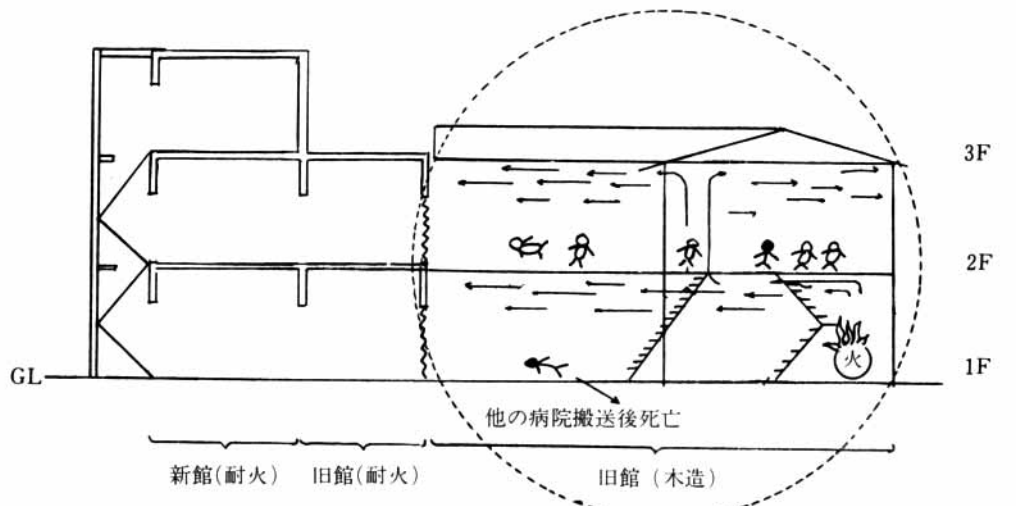
⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<p>(出火部位) (出火室の拡大) (他室への拡大) (上階への拡大)</p> <p>旧館1階10号室 机、棚等の可燃物に着火し、天井に燃え移った 天井裏から左右の病室及び廊下側へ延焼拡大 火点直近にある階段から2階に延焼。また、火点室上階の床が燃え落ちここより延焼した</p>	
	<p>L字型をした旧館(木造)1階の中央角の10号からの火炎は、天井裏に燃え移り、界壁等がないことから、左右方向へ延焼、直近にある階段から上階へ燃え移った。一方、火点室上階である2階リネン室の床が燃え落ち、ここより左右方向へと燃焼拡大していった。なお、旧館と新館B(耐火造)との境界には、防火戸及び防火シャッターにより区画されていたため、ここで延焼を阻止することができた。</p> <p>○ 延焼拡大した主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽木造建物であり、また、天井裏、小屋裏等に防火壁がなかったため延焼拡大が早かった。 ○ 出火した病室の近くに階段があったため、これがドラフト効果となって、一挙に火災が拡大した。 ○ 煙の伝播経路 <p>10号室からの火煙は、天井裏から旧館内に急速に流動し、延焼拡大とともに階段から2階へ上昇して四方に拡散充満していった。</p>	
II 火災建物概要		
① 建築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 (新館B増築) 昭和39年 (旧館竣工) 大正9年 月 日 (新館A増築) 昭和46年 月 日</p>	
管 理 状 況	<p>② 豎 穴 の 状 況</p> <p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input checked="" type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレータ <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/></p> <p>○新館のダクトスペース、パイプシャフトは防火的に区画されている。 ○新館Aの階段は1階のみ防火シャッターで区画されている。 ○新館Bの階段は、1、2階とも防火戸、防火シャッターで区画されている。</p>	<p>③ 防 火 管 理 状 況</p> <p>○防火管理者として事務長が選任届出されており、消防計画も届出されている。 消防訓練は、病院内部の部分訓練程度であった。 ○夜間当直者は、看護婦3名であった。(新館3階に看護婦寮(8名)がある)</p>
	<p>④ 防 火 区 画 等</p> <p>○旧館(木造)の天井裏、小屋裏には防火壁が設けられていなかった。 ○各病棟の接続部分に防火シャッター、防火による区画がなされている。</p>	<p>⑤ 消 防 用 設 備 等</p> <p>査察(昭和52年3月3日)確認時は、消防用設備等の維持管理は良好であった。</p>

III 火災後の行動						
① 発見状況	<p>○発見者 (入院患者)</p> <p>○発見の動機 (階段から煙が上っているのを発見)</p> <p>○発見後の行動 (「火事だ」と叫び看護婦詰所へ知らせる)</p> <hr/> <p>出火病棟2階の入院患者A(男)が、22時40分頃用便に行き帰ろうとして廊下に出たところ、階段室から煙が少し上っているので不審に思い、1階に降りて10号室前に行くと、10号室の中の火が出入口のガラス戸越しに見え、戸の隙間から煙が出ていたので、火事と判断し、「火事、火事」と叫びながら1階の廊下を走り、2階の看護婦詰所へ知らせに行った。</p>					
② 通報状況	<p>通報 した <input type="checkbox"/> () 発見後約()分</p> <p>しない <input checked="" type="checkbox"/> (近くの住民が通報)</p> <hr/> <p>○出火病棟と道路を隔てた所の住民(男)が、自宅で読書をしていると、病院側の窓が明るくなり、急にさわがしくなったので、不審に思い戸外に出ると、1階角の病室の窓から火と煙が噴き出しているのを確認し、隣の家主宅へ駆け込んで寝ていた家主(女)を起こし、通報させた。(23時14分覚知)</p> <p>○病院側からの通報なし</p>					
③ 初期消火状況	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消火した</td> <td> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> (理由又は状況) 別棟の田看護寮から駆けつけた調理師B(女)は、出火棟に接する給食棟の手洗所の水をバケツに汲み火点近くの燃焼中の階段付近に注水消火を行ったが、濃煙と火勢に押されて続行できなかった。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消火しない</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 別棟の田看護寮から駆けつけた調理師B(女)は、出火棟に接する給食棟の手洗所の水をバケツに汲み火点近くの燃焼中の階段付近に注水消火を行ったが、濃煙と火勢に押されて続行できなかった。	消火しない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 別棟の田看護寮から駆けつけた調理師B(女)は、出火棟に接する給食棟の手洗所の水をバケツに汲み火点近くの燃焼中の階段付近に注水消火を行ったが、濃煙と火勢に押されて続行できなかった。				
消火しない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>消防隊到着時は、入院患者が避難中であり、出火病棟の屋根及び2階開口部等から火煙が噴出し、猛烈な延焼拡大中であった。</p>					

	避難方法	避難上支障事項														
⑤ 避難状況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input type="checkbox"/> (人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/> 														
⑥ 死者の状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">健康人</th> <th style="text-align: right;">名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(泥酔者)</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td>要保護者</td> <td style="text-align: right;">7名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td>身体不自由者</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td>病人</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> </tbody> </table>	健康人	名	(泥酔者)	名	要保護者	7名	乳幼児	名	高齢者	名	身体不自由者	名	病人	2名	<p style="text-align: center;">避難上支障となった事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/> <p>○死亡者は、いずれも年齢的、症病的に自力脱出不可能、あるいは敏速な行動ができない患者、また就寝中であり、火災発生の伝達が遅れたため、避難時期を失って煙に巻かれて死亡したと思われる。</p> <p>○火災の拡大が急速であり、病院側の救助活動が遅れて、一部の病室しか進入できず、また、2階において、避難中の患者の誘導のみにとらわれ、十分な検索を行わなかったことが死亡者を出した大きな要因となった。</p>
健康人	名															
(泥酔者)	名															
要保護者	7名															
乳幼児	名															
高齢者	名															
身体不自由者	名															
病人	2名															
IV 問題点・教訓等																
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院側からの通報はなされず、また、有効な初期消火もなされていなかった。 2. 当直看護婦が少ないため、火点室周囲の患者救出に不足を生じ、また駆けつけた者は、避難中の患者の誘導に精一杯の状況で病室内の検索、救助ができなかった。 3. 入院患者は重症者が多く、自力避難が困難な者も含まれていながら、老朽木造で1、2階にこれらが無差別に入室させていた。 4. 収容患者数と患者の症病程度に比較して、警備、救出活動体制が不十分であった。 5. 老朽建物であり、天井裏、小屋裏に防火壁がなかったため、延焼速度が非常に速かった。 																



配置図



断面図

